

宮城県林業普及活動情報

2025. 8月号 No. 207

もくじ

各地の林業普及活動情報

P 2～9

- 大河原産業高等学校環境科学科 2 年生の実習支援 (大河原地方振興事務所)
- 伴走支援打合せ (大河原地方振興事務所)
- 森林経営管理制度の推進に向けた伴走支援を実施 (仙台地方振興事務所)
- 仙台第三高等学校に対する森林林業教育を実施 (仙台地方振興事務所)
- 森林認証制度認定に向けた打合せ (北部地方振興事務所)
- 県行造林地返地後の再造林打合せ (北部地方振興事務所)
- 林業教室の实地研修 (北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- 「インターンシップ」受入対応 (東部地方振興事務所)
- 「合板用県産材の供給等に関する調整会議」の支援 (東部地方振興事務所)
- 「古川工業高等学校林業就業体験」の支援 (東部地方振興事務所登米地域事務所)
- 南三陸森林管理協議会大船渡大規模山林火災現場視察の支援 (気仙沼地方振興事務所)
- 令和 7 年度気仙沼・南三陸仕事探検隊「丸平木材株式会社」支援 (気仙沼地方振興事務所)
- 林業作業士(フォレストワーカー) 1 年目研修の支援 (林業技術総合センター)
- 林業作業士(フォレストワーカー) 3 年目研修の支援 (林業技術総合センター)
- 令和 7 年度林業普及指導職員北海道・東北ブロックシンポジウムの開催 (林業技術総合センター)

大河原産業高等学校環境科学科2年生の実習支援

大河原地方振興事務所

【5日(火)】

本県で唯一林業の専攻科を持つ宮城県大河原産業高等学校環境科学科森林類型の2年生を対象として、森林・林業に関する基礎知識や専門的な技術、作業現場に関する理解を図るための実習支援を行いました。森林・林業に関する基礎知識に関する座学を行った後、同校の演習林にてブルーメライスや超音波樹高測定器を用いた森林計測の実習を実施し、森林林業の基礎知識について指導しました。また、林業普及指導協力員である川崎町森林組合職員を講師として、同組合の皆伐施業現場の見学や出材した丸太の検知作業体験、高性能林業機械の操作体験を行い、林業の作業現場に関する理解を深めてもらいました。

実習支援後のアンケートでは、「今回の活動を通して林業の仕事に関心を持てた」、「森林に係る仕事がしたい」、など前向きな意見が多くありました。今後も同校への森林・林業に関する実習支援等を実施し、森林・林業への興味・関心を持ってもらうことで、林業・木材産業等への就職に繋げていきます。



【森林計測実習】



【皆伐施業現場見学】



【高性能林業機械操作体験】

伴走支援打合せ

大河原地方振興事務所

【20日(水)】

蔵王町において第1回目の伴走支援打合せとして、蔵王町の現状及び今後の進め方について関係者で打合せを行いました。

県庁林業振興課が用意した、グーグルアースに林班、スギ・ヒノキを林齢ごとに色分けした図を元に、意向調査を行う地域を検討することになりました。

今年度、意向調査を実施する箇所を絞り込み、基本方針の作成を検討し、来年度または再来年度から意向調査を委託で行う方向となりました。

引き続き、関係機関と連携を図りながら助言・指導を行います。



【伴走型支援打合せ】

森林経営管理制度の推進に向けた伴走支援を実施

仙台地方振興事務所

【18日(月)、20日(水)、27日(水)】

森林経営管理制度の市町村伴走支援対象となる3市町村を訪問し、これまでの進捗状況と課題を整理し、制度の進捗に応じた支援を行いました。

山元町については、今年度から意向調査を実施するため、意向調査の進め方や委託業務の仕様書策定について支援し、その後の発注に繋がりました。大郷町、大衡村については、過年度に意向調査を実施した地区について、森林整備に向けた集積計画を策定するため、集約化の可能性を市町村職員と検討し理解を得られました。

今後も、サポートセンターと協力しながら、技術的支援を継続していくこととしました。



【伴走支援の状況】

仙台第三高等学校に対する森林林業教育を実施

仙台地方振興事務所

【18日(月)、20日(水)、27日(水)】

仙台第三高等学校の生徒を対象とした森林林業教育を実施しました。

宮城県の森林・林業、県有林の概要について紹介するとともに、県民の森の県有林ヒノキ見本園（林齢117年生）を案内しました。胸高直径や樹高の測定を指導し、さらに高校生から要望のあった土壌水分やpH等を測定しました。仙台第三高等学校では、学校林のヒノキ林を拠点に探究活動を実施しており、県内のヒノキ人工林へ興味を広げています。

今後も仙台第三高等学校のニーズも踏まえながら、森林・林業の普及活動を継続していきます。



【測樹指導の状況】

森林認証制度認定に向けた打合せ

北部地方振興事務所

【8日(金)】

加美町から要望があり、県産広葉樹利用拡大を目的としたF S C 認証取得に関して情報提供を行いました。町では、民間企業である「(株) マルホン」、「セキスイ」と協同で取組む方法を模索しています。

そのため、先陣である登米市の実績を参考にしつつ、認定にあたっての事務手続き等について打合せを実施しました。

当部からメリットデメリットの双方について伝達し、F S C 認証材は高値で取引できるわけでないこと、原木受け入れ停止時にF S C 材が優先的に受け入れられること等を助言しました。重要な点は、組織体制の構築であるため、流通経路の確立と管理及び安定した年間素材生産量の取り決め等、総合的に判断することの必要性をアドバイスしました。



【打合せの様子】

県行造林地返地後の再造林打合せ

北部地方振興事務所

【19日(火)】

地上権設定契約を結んでいる県行造林地について、土地所有者に対し返地後の再造林に向けた打合せを実施しました。

県から森林所有者に返地通知を発出したタイミングで森林整備事業の実施が可能となることについて理解が得られ、また、森林経営計画の策定を意識し、補助率が有利となる造林補助事業を活用できるようアドバイスしました。

伐採後は下草繁茂が旺盛になり、時間の経過とともに地拵え費用がかかることを考えると、返地後すぐ再造林した方が低コストになるため、早期に再造林する意欲を喚起させることが可能となるよう、密に情報を共有することになりました。



【説明会の風景】

「杜のコケリウムコンテストin栗原 & ワークショップ」の開催

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【9日(土)】

苔の魅力を幅広い年齢層へ発信することを目的に仙台市内で行われる「杜のコケリウムコンテスト2025」の栗原地区サテライト会場として、「杜のコケリウムコンテストin栗原 & ワークショップ」を開催しました。

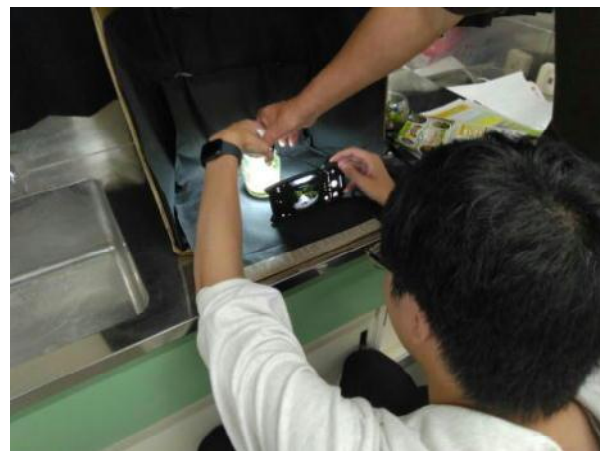
当日は、2名の講師から苔の生態や苔テラリウム（コケリウム）製作手順について解説があった後、参加者各自がガラス瓶の中に用土（赤玉土・黒土・珪砂）で土台を構築し、数種類の苔、カラーサンドや石、持ち寄ったキャラクターグッズなどを自由な発想で組み合わせ、思い思いの、自分だけの苔テラリウムを作りました。

完成した苔テラリウムは各自がスマートフォンで撮影し、その画像を同じくスマートフォンで「杜のコケリウムコンテスト」参加申込フォームを通して送信・応募しました。

コンテストでは、他の会場からの応募作品と合わせて画像による審査が行われ、後日入賞作品がSNSで公表されます。



【苔の生態や苔テラリウムの作り方の説明】



【完成した苔テラリウムを撮影し応募】

「インターンシップ」受入対応

東部地方振興事務所

【18日(月)】

インターンシップ生3名に対して、当事務所管内の概要や林業普及指導業務の活動について説明を行い、また、現地にて、森林組合の取組状況の講義や最新の合板工場、苗木生産施設の現地視察を支援しました。

こうした森林・林業に関する現地実習を通じて、管内の林業の現状を理解してもらうことができました。



【現地実習の様子】



【現地実習の様子】

「合板用県産材の供給等に関する調整会議」の支援

東部地方振興事務所

【29日(金)】

合板用県産原木の安定的な供給等を図ることを目的に、宮城森林・林業活性化センター石巻支部が事務局である検討会の開催を支援しました。会議では、今年4～7月の合板用原木の購入・納入実績、同8～12月の購入・納入計画を協議するとともに意見交換を行いました。今回の会議では、合板会社の一部工場が休止するといった新聞報道があり、素材生産側も不安に感じていましたが、合板会社側から、生産量を落とさないよう、他の工場で生産量をカバーしていくといった話がありました。また、出席者から合板用原木の採材検討会を実施してほしいとの要望があり、事務局で12月に開催を検討することとなったことから、引き続き支援を行います。



【会議の様子】

森林職インターンシップ支援

東部地方振興事務所登米地域事務所

【19日(火)】

令和8年度宮城県職員（森林職）の受験を目指すインターンシップの大学生を伴い、原木しいたけ生産者、木造施設の見学を行い、森林・林業の現場を肌で感じる機会を提供しました。また、見学した木造施設の県産木材・木製品の調達（流通）に関する講義を実施し、木材流通に関する理解を深めてもらうことができました。



【原木しいたけ生産現場での聞取り】

南三陸森林管理協議会大船渡大規模山林火災現場視察の支援

気仙沼地方振興事務所

【21日(木)】

南三陸町は「自然と共生するまちづくり」を目指しており、南三陸森林管理協議会は、南三陸町の林業関係者が、環境と社会に配慮した適切な森林管理をしていこうと考え、立ち上げられた団体になります。

当部では、同協議会のアドバイザーとして参画しており、今回、会員からの要望もあり、大船渡大規模山林火災現場の視察について企画・調整を行いました。

当日は、岩手県沿岸広域振興局のサポートにより、山林火災現場の視察を行い、あまりに大きすぎる被害規模に圧倒されました。

今後は、被災した木材の利活用や、復旧など、問題はまだまだ山積みとのことでしたが、参加者も地元で発生した場合を想定し、多数の質問が寄せられました。また、陸前高田市では、津波で被災した部材を使用して復旧された有形文化財「旧吉田家住宅」を視察し、気仙大工左官の伝統技術を学ぶことができました。

参加者からは好評であり、今後も同協議会のアドバイザーとして支援を続けていきます。



【被災森林内の調査状況】



【旧吉田家住宅主屋外観】

令和7年度気仙沼・南三陸仕事探検隊「丸平木材株式会社」支援

気仙沼地方振興事務所

【1日(金)】

当管内には、多様な「ものづくり」産業が集積しており、地域経済を支える重要な役割を担っている一方で、人口減少や少子化等により、人材確保や技術継承が課題となっています。

そこで、若年層が幼少期から地域の産業に興味や関心を持つとともに、保護者に対しても企業の認知度向上を図るため、1次産業を中心とした企業の職場体験を行っており、林



【集積された丸太の確認状況】

業部門では、南三陸町で製材業を営む「丸平木材株式会社」において仕事探検隊が開催されました。

仕事探検隊では、まずは実際に森林を散策し、森林・林業の重要性を理解するとともに、製材工場では、どのように森林から柱や板といった製品に変わるのか確認してもらうため、システマチックな製材ラインから寸分変わらず板や柱が排出される状況を見て、参加者は驚いている様子でした。また、本製材所で製材された木材を使用し、木工品づくり体験を行うことで、参加者には木の温もりや木の香りに触れ、近いようで触れる機会の少ない森林・林業にこれまで以上に興味を持って頂けたと思います。



【製材品の仕上がり確認状況】

林業作業士（フォレストワーカー）1年目研修の支援

林業技術総合センター

【4日(月)～6日(水)】

当所研修棟において公益財団法人みやぎ林業活性化基金宮城県林業労働力確保支援センターが17名の研修生を得て開催した標記研修会において、「森林情報の基礎と立木調査の方法・造林作業の種類と目的・育林作業の種類と目的・間伐作業の種類と目的」に関する学科を講義しました。また、実技として、「1日目に測竿・ワイゼー測高器・ブルーメライスの使用方法、2日目に、コンパス測量による土地面積の求積、3日目に、相対幹距比を用いた間伐木の選木と標準地調査による林分収穫量の試算」を実施しました。

これからも、林業後継者の育成に係る支援を行います。



【学科の様子】



【コンパス測量の実技】



【収穫量試算の実技】

林業作業士(フォレストワーカー)3年 目研修の支援

林業技術総合センター

【21日(木)】

当所研修棟において公益財団法人みやぎ林業活性化基金宮城県林業労働力確保支援センターが13名の研修生を得て開催した標記研修会において、「森林施業の体系及び森林整備の省力化・低コスト化作業」に係る講師依頼があったことから、原価管理に関する講義を実施するとともに、知識を補うために研修生を3グループに分け、伐出コスト算出に係る実技研修を実施する中で、代表者に試算内容を発表いただき、グループ間で検討いただきました。

これからも、林業後継者の育成に係る支援を行います。



【試算結果を発表する様子】

令和7年度林業普及指導職員北海道・東北ブロックシンポジウムの開催

林業技術総合センター

【28日(木)・29日(金)】

仙台市(ホテル白萩)において、宮城県林業普及指導職員22名を含め、林野庁・全林協・他道県職員47名の参加を得て林野庁が主催する標記シンポジウムが開催されたので、主催県として、シンポジウム(競争形式)を運営しました。

発表内容の概要は、

- ①北海道 森林経営計画の活用
 - ②青森県 ウルシ活用による再造林推進の取組
 - ③岩手県 森林経営管理制度の取組支援
 - ④宮城県 タケ資源の継続利用に向けた取組
 - ⑤秋田県 森林経営管理制度の取組支援
 - ⑥山形県 ICT技術を活用した市町村支援
 - ⑦福島県 GNSS測量の普及に向けた取組
- 参考発表 北海道森林管理局(育林作業の改善)

でした。

審査の結果、岩手県が最優秀賞となり、当ブロックを代表し、12月4日に東京で開催される全国ブロックシンポジウムにおいて全国6ブロックからなる競技会に臨みます。また、翌日は、富谷市が管理する大亀山森林公園を活動拠点とするNPO法人SCRの活動発表と現地視察が行われました。



【道県による発表の様子】



【NPO法人SCRによる発表の様子】